

一口サイズの「ゼランドの振り子の法則」

岡 浩一郎 編

アインシュタインの「相対性理論」が物質世界の革命理論なら、

ゼランドの「振り子の法則」は精神世界の革命理論だ。

1. 人間の人生は、ほかのあらゆる物質の運動と同様に、原因と結果の鎖である。

- ・ 因果関係の鎖(一つの原因が隣の結果につながり、それが原因となって隣の結果につながる、連鎖の流れ)が人生ライン(人生航路)である。
- ・ その舞台装置とシナリオを変える何らかの事が起こらない(起こさない)限り、その人間の運命は変化しない。

2. ものごとは、選択された出発点から続く人生ライン(因果関係の鎖)に沿って展開される。

- ・ どの出発点を選択するかによって運命は決まる。そしてそれは、あなたが心の赴くままに自分の運命を「選択」できる事を意味している。

3. 人生ラインは、映画のフィルムのように存在する。起こったことは消滅せず残っている。これから起こることは、今すでに存在している。

- ・ フィルムは映写機で回すと時間が生まれ、過去・現在・未来が出現するが、映写機からはずして広げて全体を見たら、最初からすべてが同時に存在している。
- ・ 飯田史彦著「生きがいの創造」に、『時間』は物質世界にのみ存在していて、精神世界(霊の世界)には『時間』の概念が存在しないと書いてあります。このフィルムの話と恐ろしく符合する話です。

4. 人間は自分が障害に遭遇するとそれと闘って克服する事を考えている。その結果、益々人生は斜面を転がり落ちて行く。

- ・ 障害に遭遇した者は、不満・意気消沈など否定的な反応をする。するとその好ましくない事は益々具現化される。
- ・ あなたはシナリオを変更する事はできない。
- ・ 世の中で起こり得る全ての出来事(運命)は、異次元に在る無限大の大きさの空間(バリエーション)の一定の場所にあらかじめ存在している。(異なるシナリオの無限大の数の映画のフィルムの全てのコマを敷き詰めた空間をイメージ)
- ・ 人間が考える思考エネルギーは、考えた通りの事が存在しているその空間の位置を共鳴させて物質化して具現する。

5. 自分の幸せは誰でも自由に選ぶ事ができ、得ようとして格闘しなくて良い。

- ・ 幸福を得るには、自分の今の人生のシナリオを変更しようとはせず、ただ自分が気に入った空間(バリエーション)上のスポット(運命)を選べば良い。

- ・ あなたは他のシナリオを選択する事はできる。
- ・ あなたの選択は常に現実化される。あなたが選択したものを受け取るのである。
- ・ ではどうしたら希望するバリエーション上のスポットを選択できるのでしょうか？

6. もしそうあって欲しくない何かについてあなたが強く思っているならば、それがあなたの人生に現れる。

- ・ 人々の思考エネルギーが一つの同じ方向を向くと、その流れがひとつにまとまり「エネルギー情報体」を産む。
- ・ そのエネルギー情報体はまるで「振り子」の様に、自分が大きく振れる様になる為に、より多くの人から同じ方向を向く思考エネルギーを奪おうとする。(振り子が止まると情報体は消滅してしまう為)
- ・ あなたがネガティブに思っている思考エネルギーは、正にその振り子に吸収され振り子は元気に、思考エネルギーを乗っ取られたあなたの思考エネルギーはその方向に固定される。
- ・ その結果、バリエーションのそれに相当するスポットが共鳴され、あなたはそれに相当する人生ラインへ移動して行く。

7. あなたが何かを回避したいと思う気持ちが強ければ強いほど、それを受け取る確率は大きくなる。

- ・ あるべき事(ある振り子の存在)に否定的な反応をし、憤慨し、文句を言い、怒れば、まさしく振り子の思うツボ。
- ・ あなたは振り子の周波数で周りの世界に負のエネルギーを放射し、振り子はそれが例え負(否定的)のエネルギーであろうと、そのエネルギー自体を受け取り更に活発に振れ動く。そしてあなたの状況は更に深刻化する。
- ・ 振り子を共鳴させた人々は、振り子の奴隷になる。振り子とひとりの人間の決闘では、批判した人間の方が必ず敗北する。
- ・ ではどうしたら、この望まない振り子から逃れられるのでしょうか？

8. あなたが悪縁から逃れる為には、手を振りほどこうとはせず、まず受け入れなければならない。

- ・ 振り子を悩んだり、振りほどこうとする行為は、振り子に自分自身のエネルギーを供給するばかりか、思考エネルギーが一定の場所に固定される為に、あなたは然るべき人生ラインへと移動する事になる。
- ・ 穏やかな気持ちで、振り子を仕方がない物、不可避の悪として認めた後で、そっと立ち去れば良いのだ。
- ・ 自分をやり過ごしてもらい、さようならと手を振るのだ。(合気道の基本…攻め手の手を取り、相手の動きと一緒に進み、その方向へ送って飛んで行く)
- ・ この「身をかわす」方法以外に、もうひとつ望まない振り子から逃れられる方法があります。

9. 望ましくない事態に遭遇したら、あなたにとってその場にふさわしくない反応をする事が事態を鎮静化する。

- ・ 望ましくない事に対し、恐怖・落胆・憤懣・立腹と言ったネガティブな感情で反応するのは、かえって振り子にエネルギーを与える事になる。
- ・ 恐怖を自信に、落胆を情熱に、憤懣を無関心に、立腹を喜びにわざとすり替えてみるゲームをすると、振り子が付け入る隙はどこにもなくなる。
- ・ 振り子と共鳴しない周波数のエネルギーと唐突に放射する事によって、振り子と不調和になり、振り子はあなたに対して鎮静化する。
- ・ 振れるのをやめた振り子のエネルギーは、あなたに移り、問題を処理したあなたは前よりも快調になる。
- ・ 望ましくない破壊的振り子から逃れる為の前項の方法が「振り子から身をかかわす方法」、本項の方法が「振り子を手なづける方法」です。

10. 人生のあらゆる複雑な問題には、簡単な解決方法がある。解決への鍵はいつも見えるところにある。

- ・ 問題を生み出した振り子は、常にあなたが解決の鍵を認識することを邪魔している。
- ・ あなたの思考エネルギーの周波数を振り子の周波数に固定する為に、問題が複雑であるとあなたに信じ込ませようとしている。
- ・ 状況から一歩退いて、従来の紋切り型の考え方や習慣に逆らい、「克服すべき障害」としてではなく「通り過ぎる必要のある道の一部」として臨め。
- ・ 恐れたり、ひるんだり、不安になったり、狼狽してはいけない。簡単な解決法が常にある事を思い出せ。自分を解放し、思考を止め、空っぽの状態を思い出すことだ。
- ・ 天才と凡人の差は、天才は「常に」振り子から自由であると言う点だ。

11. 幸運は、あなたには関心が無い、あなたのエネルギーを必要としないエネルギー構造体だ。

- ・ バリエーションの空間上には、あなたに幸せをもたらす人生ラインの集まっている所(幸運の波)が静止して存在している。
- ・ そこをあなたの人生ラインがたまたま通りかかったときに、最初の幸運があなたに大きな喜びと高揚をもたらしてくれた場合、次から次の起こる幸運な出来事としてあなたはその波によって幸せな人生ラインへと運ばれる。
- ・ 振り子とは違って、幸運の波と言うエネルギー構造体はあなたには関心がないので、あなたがそれを知覚し、掴まろうとしないと、そのまま通り過ぎてしまう。吉報として知覚されたらその投げ出されたロープにしっかりとつかまっている事が大事。

- ・ このように人は誰でも幸せを「選択」できるが、その一方で幸運の波から遠ざけようとする破壊的振り子(あなたにとって有害な振り子)への依存状態を断ち切る事が不可欠である。すなわち、破壊的振り子から自由になる事が幸せへのパスポートとなる。

12. あなたの思考は常にブーメランのようにあなたのところへ戻って来る。あなたによる思考エネルギーの放射に見合うパラメーターを持つ人生ライン上にあなたはいつも存在する。

- ・ 思考をネガティブに攪拌されたままにして置く事は、破壊的振り子にエネルギーを供給する事になる。
- ・ 電車に乗っている時、散歩している時など、あなたの意識が特に働いていない時は、常にポジティブな思考のスイッチを入れなければならない。
- ・ ポジティブなエネルギー:例えば「今持っている物に感謝し、あなたを取り囲んでいるあなたの暮らしを助けてくれるすべてに愛情を感じる気持ちになっている事」
- ・ ネガティブなエネルギーを自分に取り込まないと同時に、自分でもネガティブなエネルギーを放射しないようにしなければならない。それは必ず新たな問題となってあなたにブーメランの様に戻って来る。

13. あなた自身の気持ち、あなたの運命をコントロールしているのだと言うことを、一瞬たりとも忘れてはならない。

- ・ 楽しかった時の思いでも時間が経つと忘れてしまう様にあなたに強いるのは、振り子である。
- ・ 楽しかった時の思いを自分の中で灯し続け、その感覚を大切にする事が必要である。
- ・ 満足する事がとても難しい状況にあっても、不満を口にするのは極めて不利益である。自分の心に悪いニュースを入れてはいけない。良いニュースの為の窓を開けておかねばならない。あなたの思考が喜びと満足感に満ちている事こそが、すべてに満足できる人生ラインにつながっているからだ。

14. 問題点ばかり探し出し、解決方法を探そうとしない人たちは破壊的振り子の罠にしっかりとハマってしまった人たちだ。

- ・ あなたが自分を取り巻く世界を悪く考えれば考えるほど、意気消沈すればするほど、新たな不運があなたをめぐってやって来る。
- ・ コップは半分空なのではなくて、半分まで水が入っているのだ。
- ・ 実際、望ましくないものに対してネガティブに反応してしまう習慣を断つ事は難しいが、振り子があなたをつかみ寄せようとしている事を常に「思い出す」ように努力を積み重ねる事が大切である。これを粘り強く実践することだ。

15. 仕事に全身全霊を捧げたら、結果は期待していたものと全く正反対のものになる。

- ・ 物事が物質化した世界ではあらゆるものにエネルギーの裏づけがある。思考もエネルギーを放射する。
- ・ いかなるエネルギーであっても「過剰ポテンシャル」が生じた所は、その不均衡を解消しようとする「平衡力」が働く。
- ・ 自然にある全ての物が平衡状態を目指そうとする。昼と夜、満潮と干潮、生と死、成功と失敗、幸運と不運など、これら全てはどちらも平衡(バランス)を欠いた状態であり、常に反対の方向に向かう平衡力が働く。
- ・ 極度の疲労、仕事が苦役になるような節度を越えた努力は、必ずや否定的な結果をもたらす。
- ・ あなたが仕事の場に非常に強いポテンシャルを築けば、必ず結果はその過剰ポテンシャルを減少させる方向に動く。

16. 仕事では、自分をリリースに出し、非の打ち所なく活動せよ。

- ・ 仕事で過剰ポテンシャルを発生させないようにするために、
 - ①自分の仕事に与えている意義・重要性のハードルを引き下げよ。
 - ②仕事と自分の関係を意識して見直せ。仕事はリリースだ。自分の両手と頭は貸し出すが、心までは譲り渡してはならない。休息したり、気分転換したりすることのできない人は仕事もできない。
- ・ 過剰ポテンシャルは職場の振り子にエネルギーを与える結果になるのだ。過剰ポテンシャルを解消し、職場の振り子から解放されれば、あなたの仕事の効率は目に見えて上昇する。
- ・ ただし、仕事が完全にあなたの目的である場合だけは例外。仕事にのめり込む事があなたエネルギーを幸せを導いてくれる。

17. 展覧会で気に入らない絵があったなら、そこで展覧会への不満を激しく述べ立てずに、ただその場から立ち去り他の絵を選んだら良い。

- ・ 不満とは物質的な放射であり、その周波数はあなたが不満とみなす事柄が最もはっきり現れて来る人生ラインに相当している。振り子との闘いの観点からも不満は自らその世界を実現する。
- ・ 一方、平衡力の観点からは、不満の正当性にかかわらず、周囲のエネルギー空間に過剰ポテンシャルを生み出す。それは元に戻そうと言う平衡力を発生させるが、その平衡力はまずあなたの鼻っ柱をくじこうとする。世の中を変えるよりか簡単だからである。
- ・ 「どんな悪い事もどこか良い所があると思う」当たり前のような習慣を身に着ける事が、この悲劇に勝つ為の唯一の方法である。この習慣を身に付ければポジティブなエネルギーを生み出すようになり、あなたを力強くポジティブな人生ラインへと運んでくれる。

18. 条件付きの愛は、必ず失墜する。

- ・ 無条件の愛はポジティブなエネルギーを創り出し、あなたをそれにふさわしい人生ラインへ運んでくれる。
- ・ 愛が理想化されると、あなたとその愛の対象の間に依存関係が作られる。するとそこには過剰ポテンシャルが発生し、続いてそれを元に戻そうとする平衡力が働く。その結果、あなたは全てを失う。
- ・ 依存関係は、「もしあなたが～なら私は～」と言う条件があることによって明らかになる。
- ・ 「もしあなたが私を愛しているのなら、一緒に世界の果てまで行こう!」、「もしあなたが私と結婚してくれないなら、あなたは私を愛していない!」

19. 過大評価は人をダメにする。

- ・ 過大評価とは、人に実際には持っていない質を与える事であり、それは過剰ポテンシャルを生じさせる。
- ・ 恋人を愛するあまり、偶像化して高い所に祭ると、遅かれ早かれ神話が地に落ちるような事が起きる。
- ・ 妻が、夫にこうでなければならぬと言う理想像を強く抱いていると、彼女の確信が強ければ強いほどその過剰ポテンシャルは強くなり、働く平衡力はその理想像と正反対の夫を創り上げる。
- ・ 子供に過度の期待を抱き、しつけ育てると、過剰ポテンシャルとその結果生じる平衡力は、子供を正反対の不良に成長させる。

20. 相思相愛を実現したいと望むなら、愛されようとは努めずに、ただ愛すれば良い。

- ・ 独占したい望みや、報われる愛への望みが強ければ強いほど、過剰ポテンシャルの大きさと平衡力の働きも強くなり、逆の結果に向かう人生ラインに押しやられる。
- ・ もしあなたが占有権を主張せず、ただ単に愛するのであれば、放射のパラメーターが相思相愛の実現する人生ラインを満足させるようになる。
- ・ 占有権が強くなると嫉妬が生じるが、既に相愛の者が嫉妬を抱くと、平衡力はその嫉妬を産み出した原因である愛そのものを破壊する。嫉妬の感情が強いほど、愛が葬られる墓穴は深くなる。
- ・ 占有権の主張と縁を切るだけであなたのチャンスは飛躍的に高まる。

21. 軽蔑と虚栄心は人間の持っている欠点である。

- ・ 他人を非難する、とりわけ軽蔑すると過剰ポテンシャルによって平衡状態は大きく崩れ、あなたは自分が軽蔑した人の立場に陥る。どんな理由があろうとも、決して人を軽蔑してはいけない。
- ・ 自分の成功に誇りを感じている人が、他人の弱点・欠点などを軽蔑して行くとやがて誇りは虚栄心に変質する。この虚栄心も平衡力が鼻っ面に一発をくらわす。
- ・ 動物は軽蔑と虚栄心(罪悪感、劣等感なども)を知らない。自分の獲物に対しても憎悪も軽蔑も抱かない。

この意味で動物の方が人間より完成されており偉大だと言える。

22. ことさら優劣を比較して自分の位置づけに気を揉む事はせず、自分の長所を伸ばす方向へと気持ちを切り替えなければならない。

- ・ 優越感と劣等感はそれ自体があなたの質と他人の質を比較すると言う依存関係を表わしている。過剰ポテンシャルの発生は避けられない。
- ・ 自分を有利にする為に自他を比較することは、他人を犠牲にしてまでわざわざ自己肯定を行おうとする事。この場合平衡力の作用はいつも鼻っ面に一発お見舞いする形で現れる。
- ・ 他人の長所と比べて自分の短所を心配する劣等感も、同じように作用する。自分の短所と闘おうとはせずに隠そうともせずに、他の資質で埋め合わせる姿勢を取り、自分へのお荷物を降ろせば過剰ポテンシャルは消え去り、むしろ解放されたエネルギーが長所を伸ばすことに向けられる。

23. 強い願望は、行動をすると言うゆるぎない意図に変わった場合にのみ実現する。

- ・ 願望には3つの形がある
 - ①強い願望が、行動すると言うゆるぎない意図に変わった状態
 - ②強い願望がそのまま漂っている、怠惰でうんざりするような状態
 - ③強い願望が「もし～を得られたら(得られなかったら)、私は～」と言った目標設定を意識の中に作り、願望の対象への依存関係に移行した状態
- ・ ①はエネルギーが行動に変わるので、願望のポテンシャルは拡散される。この場合のみ成就する。
- ・ ②は純粋な過剰ポテンシャルであり、苦悩する者のエネルギーを浪費するか悪くすると不快事を引き起こしてしまう。
- ・ ③は高い意義付けが自動的に依存関係を作り出し、それが過剰ポテンシャルを生み平衡力による強い反作用を引き起こす。(あなたは結局何も得れずに望みを断念する)
- ・ 「何が何でも実現させるんだ！」はそれ自体が依存関係。あなたが心の中でその実現を信じておらず、自分自身に実現する事を全力で納得させる強い妨害電波を出す。それがポテンシャルを更に増大する。
- ・ 非常に強い願望は、決してあなたをそれが実現する人生ラインに運んでくれはしない。全生涯のかかった一大事には一生を棒に振る危険が伴っている。
- ・ 意義や重要性のハードルは低くしてやらねばならない。

24. 何かを回避したいと言う強い願望は、強ければ強いほどそれと遭遇する確率が高まる。

- ・ 断固回避したいと言う願望は、自分への不満の延長線上にあるので、凄まじい過剰ポテンシャルを生み出す。過剰ポテンシャルの観点から考えると、これを解決する為には「断固拒否する(回避する)気持ちとは意識して縁を切る」事だ。
- ・ 振り子の共鳴の観点から考えると、そうはあって欲しくない事を考えると、それが必ず起こる人生ラインの周波数でエネルギーを放射する。するとその振り子を共鳴させ、あなたは必ずそのあっては欲しくない事を受け取る。だから「振り子から身をかわす」手法か「振り子をてなづける」手法を使う事だ。(8.、9. 参照)
- ・ 正しい対処(上記)をすれば、平衡力はあなたに味方する。平衡力は今が悪ければ悪いほど大きく働き、結果的に大きな良い結果を持って来てバランスをとってくれるからだ。

25. 本当の個人の力とは、その人格が罪悪感からどれほど自由でいられるかにある。

- ・ 自然界では「善悪」の区別はなく、罪悪感はその自体が過剰ポテンシャルだ。善行をしてそれを誇りに思ってもやはりポテンシャルは発生する。平衡力はエネルギー場に発生した異質な物を取り除こうとするだけだ。
- ・ 誘導された(正しき第三者に寄って与えられた)罪悪感は一乗されたポテンシャルを生むので最悪。聖書の戒めを道徳として受け入れ、それに反した時などは代表例。
- ・ 君主や権力者には罪悪感ほとんど無いか全く無い。また勇敢な人は彼らの心の中の裁判官が自分を肯定するのでどんな些細な罪悪感に苛まれる事もない。
- ・ 人格の独立性と尊厳は、力より高く評価される。そして個人的名尊厳を勝ち取る鍵は、罪悪感を持っていないと言う事にある。
- ・ あなたを裁く権利は誰も持っていない。あなたはあなたでいる権利を持っている。

26. お金は、あなたが本来の目的へと続く道に自分から寄って来る。

- ・ 支払の為とか言う理由でヘトヘトになるまで働くのだけは決してしてはならない。お金が足りない事について始終愚痴をこぼしてはならない。こうした思考エネルギーのパラメーターは人生の貧乏なラインに一致している。
- ・ お金がどんどん少なくなるという不安に屈する事は特に危険である。恐怖とはエネルギーが最も充填された状態であり、あなたは最短ルートで貧乏ラインに自分を移動させてしまう。
- ・ だからと言ってお金が欲しいと言う願望を諦める必要はない。お金があなたの方へ川のように押し寄せて来るまで、心穏やかに接している事だけが必要なのだ。お金への過剰ポテンシャルが発生しないように、お金への意義付けを最低限まで低くする事だ。
- ・ 人は自分の目的に向かって進んでいるのなら、誰でもお金持ちになれる。だが非常に多くの人が目的を考えるをやめ、お金を追いかけるという実りの無い競争に入っている。これは縁がない振り子の為に仕えており、決して豊かになれない。

- ・ まとまったお金を貯め、使うのはできるだけ抑えようとする意欲も強いポテンシャルを発生し、この場合全てを失う確率が高まる。

27. すべてにおいて完璧にしようとする意欲は、その人生を闘いの連続へ導く。

- ・ 全てを上手にやろうと言う意欲に悪いところは何もないが、これに過剰な意義が与えられると(完璧主義)たちまち過剰ポテンシャルが発生し平衡力が現れ、全てを駄目にする。
- ・ 全ての結果が逆になり、そのフィードバックで本人は益々のめり込んで行く。やがて必然的に自分だけではなく他人にも要求を突きつけるようになる。自らの潜在意識の中に「すべてにおける自己正当性」が非常にどっしり腰を据えた理想主義者となっているからである。
- ・ こうした人間はやがて他人を裁き判決を下し烙印まで押そうとするようになる。最後は支配者の特権を要求するようになるであろう。こうなると正に平衡の法則を最も乱暴に破った典型である。
- ・ こうした人間は、振り子の庇護下にあるのならある時期までは生きのびる事はあり得ても、いつか清算する時がやって来る。

28. 幸せへの道における唯一の障害は、人為的にもたらされた「重要性」だ。

- ・ 重要性を物事に与える事は、振り子を喜ばせる為に人間が発明したものだ。
- ・ 自分の長所の過大評価(「重要な仕事をしている!」、「VIP だ!」)または短所の過大評価(自己卑下)は「内的重要性」と呼ばれ、過剰ポテンシャルを生み出す。
- ・ 周りを取り巻く世界の事象に大きな意義を与える事(「私にとって～する事は非常に重要だ」、「私にとって大きな意味を持つのは～だ」)は「外的重要性」と呼ばれ、制御不能な大きな過剰ポテンシャルを生み出す。
- ・ そもそも過剰ポテンシャルは、自分の内部または外部において、過剰な意義を与えた場合に限り発生するものなのだ。
- ・ 重要性を低くするとあなたの人生における問題の数がはるかに減る。内的重要性や外的重要性と縁を切ると、あなたは「選択の自由」と言う宝物を手に入れることができる。

29. 平衡力とは決して闘ってはならない。重要性のレベルを引き下げの方法を考えよ。

- ・ ユーモア感覚、自嘲する能力、侮辱にならない程度に悪げ無く他人を笑う能力などは、唯一過剰ポテンシャルを作らない。ユーモアとはそれ自体が重要性を付けて物々しくする事への否定だからである。
- ・ 自然に振舞おう。自分があるがままに受け入れるのだ。内なる平穩を求めよ。
- ・ 成り行きに任せ、気軽な対応に心掛けよ。

- ・ どんなに確信があっても、一枚のカードに全てを託してはならない。
- ・ 物事の準備をする時は、決して入り念に準備をしてはならない。重要性を強めてしまうだけだからだ。準備は「保険をかける」と言う形に限る。
- ・ 「私は重要な仕事をしていない」、「仕事は重要で無い」と自分自身に言い聞かせよ。
- ・ 例え極めて正当に手に入れた事であっても、どのような状況であっても決して自慢してはならない。
- ・ 重要なポテンシャルは行動によって拡散する。考えていないで行動すべきである。行動できなくても考えてはいけない。注意を他の対象に向けよ。

30. 人は歳をとると共に物質的な豊かさをコツコツ築き上げるかも知れないが、それによって幸せになる事はない。

- ・ いつの時代も人は「ああ、昔は良かった！」と言う。世の中が常に悪い方向に変化していると言う事はない。それは多くの人は希望よりも不満を沢山口にして来た事によって、悪化した道へ進む波長に同調してしまい、悪い人生ラインへと本当に吸い寄せられてしまったからだ。(誰しも子供や青春時代は希望と色彩に溢れていたはずだ)
- ・ 不満と愚痴は、3倍の大きさのブーメランとなってあなたに戻って来る。
 - ①不満の過剰ポテンシャルはあなたに平衡力を差し向ける
 - ②不満は、振り子があなたからエネルギーを汲み取る為のルートとなる
 - ③あなたはネガティブなエネルギーを放射しながらそれに見合った人生ラインへと移動する
- ・ 各人の人生はバリエーション空間における自分のセクターに調整されている。世界とはそれらがたくさん積み重なって層となり現実化されたものだ。人間の思考エネルギーは特定のセクターで物事を現実化する(=人生を作り出す)。
- ・ 人は自分の層を選択する可能性を持っていて、そのような選択を自分で行っている。全てはあなたが選択した結果なのだ。

31. ネガティブな振り子は自分の網に信奉者をおびき寄せ、漏斗に吸い込まれる水のように猛烈な回転でその中に人を吸い込む。

- ・ 人間の心理はポジティブな事よりネガティブな事により強く反応するようになっている。怒りや恐れから憂鬱や落胆状態にはすぐに陥る一方で、喜びはすぐに消え去ってしまう。
- ・ 人間のこの特性を積極的に利用しているのが振り子だ。マスコミはその代表例。良いニュースは滅多にない。ネガティブなニュースを大々的に取り上げ、視聴者を惹き付けながら自分のキャンペーンを行う。
- ・ 何の興味を引かれることも無い連続メロドラマを2,3回も見れば引き込まれてしまうのも、思考放射の周波

数がその番組の振り子に乗っ取られ、注意力がそのセクターに固定されてしまうからだ。

- ・ 人は発端に関与する事で、気がつくと漏斗に吸い込まれる水の渦巻き領域にいる。渦巻きは猛烈な速度で回転を上げ、人をその中に引き込む。

32. 惨事や災害に関する情報を自分の中に取り入れず、それらに関心を持たず、思い悩まず、話題にせず、総じて聞き流す事ができれば、あなたが惨事に遭遇する確率はゼロに近いと言える。

- ・ 他人の身の上にかかる惨事について関心を示し、不安を感じ、心配する人は一番漏斗の渦に引き込まれやすい。
- ・ 興味本位で扇動的な新聞・雑誌を定期購読し、テレビのメロドラマに釘付けになり、惨事や天変地異に関する新たな報道を待っている人は、必ずやがて傍観者から惨事の犠牲者へと変わって行く。
- ・ 必ずそうになってしまう。それは惨事はその人の人生の一部となっており、その人自身が自分の層に惨事を取り入れ、いつの間にか犠牲者の運命を受け入れ、不運なバリエーションを現実化してしまったからだ。

33. 活発な抗議活動は、抗議の対象を幫助しているのに等しい。

- ・ 例えば、戦争に賛成であろうと反対であろうと、すなわちプラスであろうとマイナスであろうと、戦争と言う周波数でエネルギーが放射されれば、そのエネルギーは振り子に供給され、放射した人間はそのラインへ転移する事になる。
- ・ 反戦デモや集会で活発な抗議活動をして戦争に反対して闘っても、戦争はあなたを飲み込んでしまう。
- ・ 平和主義に基づく提案や、振り子の素顔と動機をあばく事こそが戦争の火種を消す行動となり得る。

34. 振り子との遭遇を避けようとする望みは、過剰ポテンシャルを生み出し、振り子と共鳴させる結果に追い込んで行く。

- ・ 自分が失業者の一人になりかねないと言う恐怖を抱くと、「解雇候補」と書かれた札を胸にぶら下げているも同然である。
- ・ 解雇されると言う恐怖の原因はあなたの潜在意識の中にある罪悪感に潜んでいる。誰が解雇されるのだろうか？仕事のできない順番か？そこであなたが自分が他の社員より劣っているとみなしたら、自分で自分をブラックリストに載せたも等しい。罪悪感とは縁を切らねばならない。
- ・ 罪悪感と縁がどうしても切れない場合は、万が一の場合でも予備の働き口がある様に他の仕事を探す「保険をかける」具体的な行動を取ろう。「保険」と「行動」によって過剰ポテンシャルは希釈される。

35. 病気の原因はあなたが下した自発的同意にある。

- ・ 流行病の病原体に感染するのも、実はあなたの自発的行為だ。感染する前にあなたがそうなる事を認める

過程があるのだ。(これを信じるか信じないかはあなたの自由だ)

- ・ どこかで流行病がはやっていると言う情報を得たあなたが、誰でもそれに感染し得ると考え、自分が感染した状況を思い巡らす。これがすべての始まりだ。破壊的振り子の周波数でのエネルギー放射の始まりだ。
- ・ 反対に病気には絶対にかからないと決めてかかり、自分は絶対的に健康であって病気にはならないと自己暗示をかけても同じことだ。あなたが病気のことを考えているのに変わりはなく、あなたは病気の周波数でエネルギーを放射している。

36. 貧困から抜け出て富裕になるのは、行動しようとする決意と心構え(意図)が無い限り不可能だ。

- ・ ①自分が置かれている貧乏への憎悪、②金持ちへの羨望、③満ち足りた状態への望み、の3つの感情を持ったまま富裕なラインへ乗り移る事はほとんど不可能であると断言できる。
- ・ 憎しみが強くなれば遭遇する可能性は大きくなる。思考エネルギーがそれがたくさんある人生ラインの周波数で放射されているからだ。解消しようとする平衡力はあなたに向けられる。世界を変えるよりもあなた一人を変える方が簡単だからだ。
- ・ 羨望と言う感情は非常に強い破壊的要素がある。顕在意識は羨望の対象を見かけ上自己安堵の為に価値を失わせようとする。しかし潜在意識は全てを理解しており、価値を失わせた物や拒絶した物を手に入れないようにする為あらゆる事を行う。
- ・ 望みや願望は何の力も持っていない。どうせ何も起こらないと言う確信から行動に出ないのだ。
- ・ 行動しようとする決意と心構え(自分の心の中に心が落ち着けるゾーンに豊かさの属性を取り入れること)を持った「意図」のみが解決してくれる。

37. 富裕から貧困への転移は気が付かないように始まり、気付いた時には止める事が不可能である。

- ・ この転移は一時的な資金繰りの悪化から始まる。あなたはまず不満を漏らし、やがて憤慨をする。あなたはそれを誰かのせいにしてネガティブな反応か行動で示す。
- ・ この瞬間あなたは漏斗の渦巻きにぴったりと捕らえられる。ますます金との縁が薄くなって行く出来事が起こり、それに対するあなたの不安が振りに更にエネルギーを与え、振りは益々凶々しく振舞う。
- ・ この状況で不満・攻撃・憂鬱などの過剰ポテンシャルが発生すると、破壊的振りに加えて平衡力が発生する。もはや制御不能で雪崩減少が起きる。
- ・ この誘導転移を避ける唯一の方法は、スパイラル(漏斗の渦巻き)の先端に引っ掛けられないようにする事と、破壊的振りのゲームに乗らないようにする事だけである。常にそう「思い出す」事が大切なのだ。

38. バリエーション空間の情報フィールドに直接アクセスする事により、予感・直感・予言・発見・芸術の傑作などが生まれる。

- ・ 顕在意識(理性)は情報フィールドのデータを読む能力は持っていない。しかし潜在意識(魂)は直接それにアクセスする事ができる。
- ・ この能力にたけ、自由に情報フィールドにアクセスできる人が、例えば透視能力を持つ超能力者達だ。
- ・ 理性(顕在意識)はそれ自体では何ら新しいものを創り出す事はできない。理性は潜在意識(魂)が情報フィールドから得たデータを分析し、それらを具体的な形に表現する事ができるだけだ。
- ・ 人間は自分の理性によって次々と新しいものを創り出すことができるという考え方は、単なる努力目標にすり替わるだけだ。

39. 疾走する思考を止めて、空っぽの状態でいると、明け方の星のさざめき、つまり言葉のない内なる声を聞くことができる。そして魂(潜在意識)の声に注意深く耳を傾けるならば、理性(顕在意識)は多くの問題に対する答えを見つけられるだろう。

- ・ 情報フィールドからのデータを明確に読み解く事ができるのは非常に少数の人達だけである。大半の人はこうしたデータの曖昧な響きだけを、一瞬の予感や不明瞭な情報と言う形で受け取っている。
- ・ 理性(顕在意識)は文字・言葉・概念・図形・規則など確立された記号を用いて考える。(空は青い、水は流れる、鳥は飛ぶ、虎は危ない...) 情報フィールドからデータを受け取ってもその情報が合理的な記号を持っていないと、理解はできず、単なる「知」として受け取る。この「知」をなんらかの既知の記号で説明ができるとそれは発見になる。
- ・ 逆に魂(潜在意識)は知っている事を言葉や文字で表現する事ができない。その為理性は魂と折り合って話しをつける事ができないでいる。

40. 決定を下す瞬間に、あなたの魂(潜在意識)が理性(顕在意識)に語りかけている事を確かめて見る事が大切だ。

- ・ 理性は魂が伝えようとする、か細い声をほとんど聞かない。漠然とした予感を受けてもそれを良く考えようとしな。理性は振り子に取り憑かれていて手一杯なのだ。おまけに自分の行動と筋道に自信を持っている。
- ・ 魂は理性と違って考えることをしない。魂は感じ取って知るのである。だから間違う事がない。
- ・ 人々は自分の感情より理性による結論の方を信用しがちである。その為自分の魂の平穏状態に注意を向けると言う、より大切な事を忘れてしまった。
- ・ 何かの決定を下したら理性には一旦口をつぐむよう命令をし、自分自身に問いかけてみよう。「気分はどうか？良いか？悪いか？」そして次に別の解決策に気持ちを傾けて同じように問いかけてみよう。「気分はどうか？良いか？悪いか？」と。

41. 手に入れたい物があるのなら、乞い願う事も、要求する事も、闘う事もなく、ただ行って取って来れば良い。

- ・ 人間の邪魔をしているのは、人間自身が生み出す「重要性」の過剰ポテンシャルによって発生する、振り子と平衡力である。
- ・ ねだり屋(乞う)は自分の罪のポテンシャルを生み出し、振り子に自らを委ねる。
- ・ 怒りん坊(要求する)は不満のポテンシャルを生み出し、平衡力が自分に対して働くように自ら仕向ける。
- ・ 無鉄砲者(闘う)は振り子との戦争でエネルギーを浪費するだけである。

42. 理性はいつも正しい答えを出してはくれない。流れの中で滝壺に導くのは理性であって、バリエーションの流れではない。

- ・ バリエーションの空間にはあらゆる行動の最適なバリエーションが小流を構成している。最適な因果関係の鎖で構成されているのだ。
- ・ 理性は常に人間が人為的に作り出した重要性の影響下にあり、振り子に揺さぶられており、理性自身は冷静に考えているつもりだろうが、実は振り子の請け売りをしているだけだ。理性は振り子の利益になる様に行動する為、いつも最適なバリエーションの小流から外れる。
- ・ 一番最初の鍵は最小限の抵抗で道を進むと言う物だ。たまたま近くにあった最も単純なバリエーションを選ぶ習慣を訓練して身につける必要がある。流れに沿って進むと言う原則に従うのだ。
- ・ 平衡状態を保ち、過剰ポテンシャルを作らない様にする。その為には常に重要性のレベルをチェックしなければならない。周囲の世界とバランスの取れた状態になったら、小流にただ従うだけでいいのだ。
- ・ 状況から少し距離を置き、参加者ではなく外から見守る観察者になろう。奴隷でも主人でもなく、ただの執行者として自分をリースに出す、すなわち、自分の両手と頭を貸し出しても、心は常に解放しておき、自分自身はその仕事ぶりを外から観察するのだ。この簡単なやり方に身を委ねよう。

43. 明け方の星のさざめきに耳を傾けよ。

- ・ そろそろバリエーションの流れにカーブがあるかもしれないと示してくれるものがサインだ。別の人生ラインへと移動が始まる時だけにサインは現れる。もし現象に注意を傾け、そこに普段とは違うただならぬものを感じたら、それはサインかもしれない。そのサインが肯定的か否定的かを見極めることが重要だ。
- ・ 最も明確で核心をついているサインは人の発言だ。偶然に発せられた言葉がもし何かを行うとか、どう行動するとかなどについてのアドバイスだったら真摯に対応すべきである。
- ・ 何かの決断を下す必要がある時は、立ち止まって明け方の星々のさざめきに耳を傾けてみよう。
- ・ その決断が「気分が良い」のか「気分が悪い」のか、魂の快適さを確かめよう。「気分が悪い」のであればその判断は悪いのである。
- ・ もしあなたが自分自身を説得し説き伏せたりして「はい」と言わせなくてはならないのであれば、魂は「いいえ」と言っている。あなたの魂が「はい」と言っている時は、あなたは自分自身を説得する必要がない。

44. コントロールする事を諦める事で、あなたは本当にコントロールする事ができる。

- ・ 理性は二つの荷物を負わされている。①問題を常に合理的に解決しなければならないこと、②状況を常にコントロールしなければならないこと
- ・ この事自体は意味のない事ではないが、問題は理性はいつもこの二つを文字通り杓子定規に適用しようとする所にある。理性は流れに沿った自分の動きをコントロールしようとするのではなく、流れそのものをコントロールしようとする。
- ・ 自然は最初から完成されている。バリエーションの小流には理性の最も懸命な考察と比べ、ずっと多くの合理性と論理性が備わっている。
- ・ コントロールしようとせず、見守るようにしてみよう。あなたからの積極的介入がなく状況が解決されていくよう猶予を与えよう。傍目八目(おかめはちもく)、外部の観察者は直接参観している者より有利なのである。自分をリリースに出すのだ。コントロールを諦める事で、実態的にはあなたは今まで以上に大きな監督権を得るだろう。
- ・ 状況から少し距離を置く事が大切だ。理性は自分のシナリオに無い事柄を障害として捉える傾向がある。コントロールしようとする手綱をゆるめ、予見できなかった事象も自分のシナリオに受け入れよう。
- ・ もしあなたがバリエーションの流れに沿って進むのであれば、世界の方からあなたを迎えてくれることだろう。

— 完 —

■ あとがき ■

本稿は、徳間書店発行 ヴァジム・ゼランド著「振り子の法則」を、一口サイズ 44 編に抄訳したものです。理解不足で不適切な部分もあるかと思いますが、段落が少なく論理的展開がやや見えにくい原書を少しでも正しく理解する為に、自分自身の学習の目的で整理したものです。本稿が、これから原書に学ぼうとされる方のお役に立てば幸甚です。

なお、私の個人的な経験に基づいたもので甚だ僭越ではありますが、本書に触れる前に、以下の書籍をお読みになる事を強くお勧めします。本書に繰り返し登場する、理性(顕在意識)と魂(潜在意識)が、物質世界と精神世界と言う対比で、わかりやすく且つ衝撃的な常識を覆す観点で説かれており、本書を理解する上で大きな助けになってくれるものと確信しています。

PHP 文庫 飯田史彦著「生きがいの創造」

2007年4月18日

〒357-0023 埼玉県飯能市岩沢 741-4

phoenix@mafnet.jp

岡 浩一郎